

# 工期中の安全無事祈願

## 新校舎建設で「起工式」

工事中校舎の全景



新校舎建設にあたり、去る5月25日(水)聖光学院ラムネホール前広場にて起

工式が行われた。起工式は、工期中の安全無事等を祈願して行うキリスト教儀式で、意味合いは少し異なるが日本では「地鎮祭」に相当し、神父によるお祈りや聖書朗読、参加者による聖歌斉唱など、結婚式や聖光学院の始業式などと似た形式で行われていく。

このたびは、教職員、校友会、父兄代表などが集う中、カトリック山手教会の飯野神父司式のもと、聖水お清めによる敷地祝福、トマス・トランブレ理事長と施工する戸田建設の井上代表取締役社長による献入れの儀、そして、工藤校長と後藤校友会会長らによる共同祈願が行われた。

工期	期間   新築部分	2011	新校舎入居時期[予定]
第1期	11.05-12.03 プール 中学ゾーン   管理ゾーン	2012	12.04 職員室   事務室 50期   51期   52期
	11.05-12.11 講堂ゾーン		
第2期	12.05-12.11 第1体育館	2013	12.11 第1体育館
第3期	13.01-13.08 高校ゾーン 特別教室ゾーン	2013	13.04 53期
第4期	13.10-14.02 体育ゾーン サッカー場   野球場	2014	13.09 54期   55期   56期
		2014	14.04 57期 グラウンドオープン



工期中の安全無事を祈願して行われた起工式



校舎の建設工事が本格的に始まりました。校舎の整備計画が完了するのは2014年3月で、工期は3年にわたります。すでに一部の建物の取り壊しも始まっており、校舎の北側にあったプール、ラバーのテニスコート、剣道場、卓球場などは取り壊しになりました。

私が入学した1968年とほぼ同じように、校庭の南北がすべて見渡せる状態になります。改めて校庭の広さ

うのです。自分としては、多くの先輩の思い出が詰まっていた空間を壊していいのではないかと自責の念にかられてしまうこともあ

2月に私は、各学年の生徒を屋上に連れて行って学校の周りの様子を説明しました。「碧い深きわだつみや、紫にほう山静か」という校

よって、現在よりも開けた視界で海を望むことができるとなっています。建築工事のうち第一期の工事は来年の三月に完成し、高校生の三学年が新しい校舎を使い始めることになり

教員の異動もないために、教育の方向性が一定であることから、そうした活動が時代を超えて可能となる土壌があります。そして何よりも学校というのは、次代をになう感受性豊かな中高生が集う場であり、その子供たちが輝きを持って学ぶ場として、より良い環境を整備しなければなりません。校舎建築のコンセプトは「一時代を超える百年建築」。卒業生の皆様のご期待にも十分応えられるものとなるべく計画を進めてまいります。今後ともどうぞご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 輝き持って学ぶ場に

校長 工藤 誠一

を実感しています。考えてみれば、中高の6年間をこの校舎で過ごし、さらには1978年からずっと過ごしてきたこの空間が全く異なるものへと変化してしま

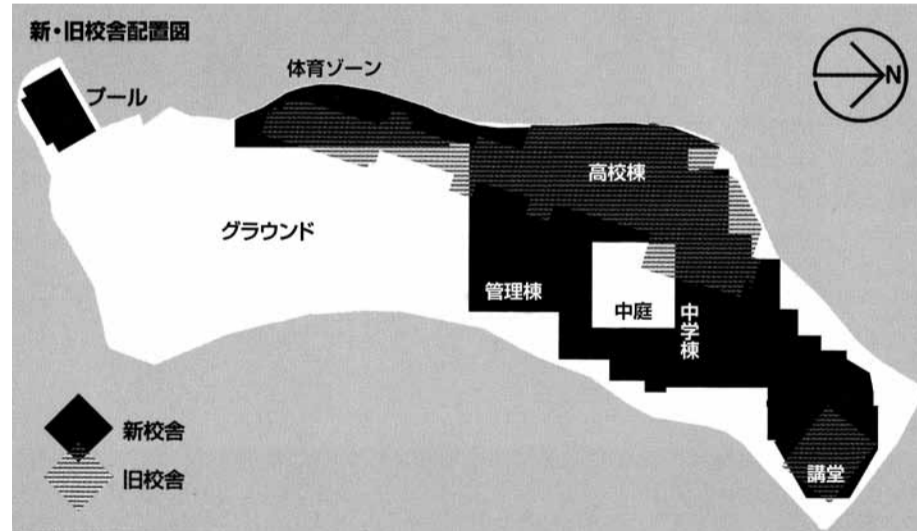
ります。高校3年生の教室からは、根岸湾のかなたに、房総半島や三浦半島を望むことができたのです。新しい校舎からは海を望むことが不可能になります。この

歌の詩句を、実際に感じ取ってほしかったからです。幸いなことに修道会から購入させていただいたザビエルセンターからは、現在の校舎がなくなることに

私はかねてより私立学校の存在意義の一つは、その地域の中で文化を発信していくことにあると考えています。建学の精神を持ち、

願ひ申し上げます。

願ひ申し上げます。



## 施行計画

戸田建設と協議して、本工事を2011年の聖光祭が終わった後から開始することにしました。しかしその前に、準備工事として現在の屋外プールとラムネホールの一部を解体し、グラウンドに仮設テニスコートを作ります。工事は2011年度から2013年度まで3年間に亘って、段階的に新築と解体を繰り返します。そのスケジュールは概ね右表のとおりです。ただしこれは、あくまでも現時点における予定です。